

<認知症対応型共同生活介護用>

評価報告書

趣旨

地域密着型サービスの外部評価項目構成

I. 理念に基づく運営	項目数
1. 理念の共有	11
2. 地域との支えあい	2
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	1
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	3
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

訪問調査日	平成 19年 4月 20日
調査実施の時間	開始 10時 30分 ～ 終了 14時 00分
訪問先事業所名 (都道府県)	グループホーム 城山 (鹿児島県)
評価調査員の氏名	氏 名 中島 文作 氏 名 久留須 浩一
事業所側対応者	職 名 管理者 氏 名 小野 純子 ヒアリングを行った職員数 (2)人

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載します。

○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入します。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけます。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容について記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家 族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

1. 評価報告概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4670104555
法人名	社会福祉法人 城山会
事業所名	グループホーム 城山
所在地 (電話番号)	鹿児島市長田町32番1号 (電 話) 099-219-7211
評価機関名	特定非営利活動法人 シルバーサービスネットワーク鹿児島
所在地	鹿児島市真砂町34番1号 南光ビル303号
訪問調査日	平成 19年 4月 20日

【情報提供票より】(平成 19年 4月 4日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成 17年 9月 1日				
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計		18	人
職員数	17人	常勤	7人	非常勤	10人 常勤換算 17人

(2) 建物概要

建物形態	併設 / (単独)	(新築) / 改築
建物構造	木造造り	
	2 階建ての	1 階 ~ 2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円		その他の経費(月額)	円
敷 金	有(円)		(無)	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(円) (無)		有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり		1,000円	

(4) 利用者の概要(4月 4日現在)

利用者人数	18 名	男性	1 名	女性	17 名
要介護1	3 名	要介護2	6 名		
要介護3	6 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 85.7 歳	最低 79 歳	最高 91 歳		

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	医療法人 博悠会 中村(哲)産婦人科、内科 医療法人 市来歯科
---------	---------------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

鹿児島市中心部の高台に位置し、隣接する同一法人の特別養護老人ホームと一体となり、介護の質を高めるための研修や緊急時の対応、地域住民との交流など積極的に取り組んでいるホームである。定期的に協力医療機関の医師、歯科医師、作業療法士が訪問するなど、医療面での支援も充実している。 また、特養の温泉大浴場が利用できたり、希望により夜間の入浴にも対応するなど入居者中心のケアが実践されている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	緊急時の手当についてはマニュアルが作成され、ホーム独自の勉強会を実施している。また、消防署の指導による緊急時対応訓練も計画されている。市町村との関わりについては、近々開催予定の運営推進会議等を有効に活用していただきたい。他の改善課題についても、管理者及び職員が協力して改善に向けて取り組んでいる。
重点項目②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	管理者及び職員が評価の意義をよく理解し、全員で自己評価に臨んでおり、今後取り組みたい項目についても全員で検討がなされ、評価に対する前向きな姿勢が伺える。
重点項目③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議は未実施であるが、5月中の開催に向けて準備中である。
重点項目④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族会や面会時などに、入居者の日頃の様子や健康状態等について報告されている。意見や苦情は、直接あるいは苦情箱を通じて反映される仕組みとなっており、全員で検討して対応されている。また、その内容は第三者委員にも報告され助言を受けられる体制である。
重点項目⑤	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	ボランティア(一般・学校)や職場体験学習(学校)の受け入れ、母体法人主催による地域に開放した夏祭りや廃品回収、ボランティア清掃の実施など、地元の人々との交流に努めている。

2. 評価報告書

(☐ 部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	4670104555	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	母体法人の理念に加え、グループホーム独自の理念(副理念:「あなたがいるから幸せです。あなたの笑顔が一番です。」)がつくられている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	朝・夕の申し送り時に理念の唱和を行うと共に、毎回一人ずつ理念に沿ったその日の目標を朝礼で発表してもらい、夕礼においてその結果を発表してもらうなど、理念の実践に向け日々取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の小学校の運動会への参加やボランティアの受け入れ、毎月のボランティア清掃の実施に加え、隣接する母体施設主催の夏祭りに地域の人々招待するなど地元の人々との交流に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	サービス評価の意義や目的が全職員に伝えられ、全員で自己評価に取り組まれている。また、昨年の外部評価の結果についても管理者及び職員が協力して改善に向けた取り組みが行われている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み	運営推進会議はまだ開催されていない。 (5月中に第1回運営推進会議開催予定)	○	幅広い立場の人の参加をつのり、事業所の取り組み内容や具体的な改善課題を話し合い、地域の理解と支援を得る有意義な会議としていただきたい。

外部	自己	4670104555	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市との連携は積極的に行われていない。	○	運営推進会議以外でも市の担当者に事業所の考え方、運営や現場の実情等を積極的に伝える機会を作り、運営の実態を共有しながらサービスの質の向上に取り組んでいただきたい。
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	入居者の日頃の暮らしぶりや健康状態についての報告、金銭出納帳の確認等は、家族会や面会時に実施されている。また、毎月発行される「グループホーム城山便り」にて、職員の異動等を含めて日頃の様子が報告されている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族等が意見、不満、苦情等を表せる機会として、苦情ボックスの設置や第三者委員の選任も行われている。苦情等があった場合は、管理者へ報告されると共に職員全員で対策が検討されている。また、その内容は第三者委員にも報告され、必要に応じて助言をもらえる体制ができています。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	異動や離職により職員が入れ替わる場合の、利用者へのダメージを最小限に抑えるため、正式に勤務する前に、研修として入居者に接する機会をつくったり、入職後も、しばらくは従来から勤務する職員とペアになってケアにあたる等の配慮がなされている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	事業所内部で行われる研修の他、母体法人が実施する研修にも積極的に参加している。また、外部研修についても偏りなく全ての職員が参加できるよう配慮されている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同一法人のグループホームでの研修や、同業者の研修受け入れなど交流機会がもたれている。また、外部の研修会等で交流を持った他事業所の職員との情報交換等も行われている。		

外部	自己	4670104555	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前のホーム見学やお茶会への招待、更には隣接する特養のショートステイを活用していただくなどして、徐々に馴染んでいただくよう工夫されている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	日常の家事(掃除、洗濯、料理など)を共に行ったり、昔ながらの風習や行事、料理の仕方を教えていただくなど、入居者と共に過ごし支えあう関係が築かれている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメントシートを、説明文や記入例と共にご家族にお渡しして、日頃ご本人と接しておられる視点から記入していただくことで、普段の様子や希望、意向の把握に努めている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入居者の現状を把握するために、センター方式のアセスメントシートに、ご家族にも記入していただく等、入居者本位の介護計画作成のための取り組みがなされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期(6ヶ月毎)に加え、入居者の状態に変化が生じた場合にも、現状に即した介護計画の見直しが行われている。		

外部	自己	4670104555	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	看護職員を配置して健康面での管理に配慮したり、受診支援等を行っている。また、その時々状況に応じて関連事業所を利用するなど、多機能性を活かした支援が行われている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	看護職員が中心になり、入居者及びそのご家族が希望されるかかりつけ医による適切な医療を受けられるように、日頃から医療機関との情報交換等が行われている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合については、家族も含め機会あるごとに協議されているが、終末期のあり方については、まだ具体的な話し合いがなされていない。	○	重度化した場合や終末期のあり方について、事業所としての対応方針を明確にした上で、入居者本人やそのご家族、かかりつけ医と十分な協議を重ね、全員で方針を共有していただきたい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	プライバシーの確保や羞恥心への配慮など、研修やミーティングを通じて徹底されている。また、個人記録などは普段から施錠のできるスタッフルームで管理されるなど、個人情報の管理についても配慮されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者の日々の生活の流れは一応定められているが、あくまでも目安にすぎず「ゆっくり・のんびり・あなたらしくそのまま」を目指し、一人ひとりのペースを大切にケアが行われている。		

外部	自己	4670104555	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	調理や配膳、後片付けといった食事に関する一連の作業が、入居者と職員の協力により行われている。また、職員も入居者と同じ食事を一緒に楽しみながら、必要な方には適切な食事のサポートも行われている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入浴は入居者の希望でいつでも楽しめる。夜間の入浴を希望される方に対しても、職員のシフトを調整するなどして対応されている。また、併設施設の大浴場も利用可能であり、希望者は喜んで利用されている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日々の暮らしの中で、入居者それぞれの得意なことやお好きなことを中心に、役割を見出せるよう支援が行われている。敷地内にある菜園での畑仕事や収穫も楽しみごととなっている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	ホームが高台に位置し周囲は殆ど坂道であるため、施設外への散歩はやや困難である。しかしながら、同一法人の施設を含めて敷地は広く、眺望の良い場所や菜園に散歩に行ったりして、ホームに閉じこもらないよう支援されている。また、ドライブや買い物など施設外への外出も頻繁に行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	立地条件や建物の構造上、安全を考慮して玄関は自動ロックになっているが、入居の際には説明がなされ同意を得ている。しかし現在は、鍵をかけることの弊害への配慮から、日中は基本的に玄関は開放され、職員による見守りが徹底されている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	併設施設と一体になった災害時の体制が確立されている。夜間想定も含めて、年2回の消防訓練も実施され、いざという時に的確に避難誘導ができるよう対応されている。		

外部	自己	4670104555	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立については、併設施設の管理栄養士に定期的にチェックしてもらい助言を受けている。また、体重測定を定期的に行い、必要に応じて食事チェック表をつけ、個別に栄養管理を行うなど支援されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間にはダイニングテーブルの他、ソファ等がおかれ、職員と入居者が一緒に座り談笑するなど、思い思いに過ごせる居心地の良いスペースとなっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の協力のもと、入居者の使い慣れた家具や仏壇等、馴染みの品物が持込まれたり、自らがレクリエーションの際作った装飾品が飾られるなど、居心地良く過ごせるように配慮されている。		